

## 漢字（古代文字）を学ぶ喜びを新たな観光資源に

# 特別賞



福島県 「喜多方を漢字のまちにする会」

顧問 高橋 政巳（代理：高橋 梢）

喜多方に構えている「楽篆工房」で12年前から、来店して記帳してくださった方に御礼としてお名前を古代文字で書き、その漢字の持つ意味を説明しプレゼントしてきた。そこから次第にまち全体での活動に展開してきて、「漢字のまち喜多方」が今回このように評価していただけることとなり、大変うれしく、さらに発展していくことを願います。

### 実践の概要

漢字のもつ歴史的意味や美しさを楽しみながら発信し、古代文字を媒体として喜多方の良さを伝え、喜多方を「漢字のまち」として新たな観光資源として展開するとともに、「生きがいのある生活の創生」や「子どもの漢字教育」に重点を置き活動している。「漢字のまちづくり」は、小学生くらいの子供から大人やお年寄りも楽しめるもので、交流活動としてさらに展開を図っている。

### 実践内容

#### 1 古代文字看板の設置、漢字マップ作成・漢字ガイドの育成

東日本大震災後激減した教育旅行や観光客に対して、漢字を学ぶ喜びを観光資源とするため、市内の店先に古代文字で店のコンセプトをひと文字あしらった看板を設置。200店舗を超える店が設置。高橋政巳亡き後は、データを活用して彫り看板で展開。何度来ても新しい発見があるように、全て違う漢字を使用。古代文字の知識をいかしてまち案内する認定ガイドも育成。



#### 2 きたかた漢じるフェスタ・ミステリーウォーク開催

市民の方に漢字の面白さを体験してもらい、さらに漢字のまちの取組みを進めるため、市民向けミステリーウォークを開催（県外も参加）。市内に設置された古代文字看板を巡り小学生から高齢者まで楽しく街歩きできるコースを用意。ゴール後は古代文字で書かれた自分の名前カードを探すイベント等を展開。



#### 3 感じる漢字あそび「創作漢字コンテスト」：計37回開催（2010.10現在）

辞書にない新しい漢字の創作を募る「感じる漢字あそび・創作漢字コンテスト」を開催。毎回出される「テーマ」から自分の思いや気持ちを想像し、漢字の形にする楽しみをたくさんの人に共有してもらっている。コンテストの第20回目には、開催を記念して、これまで全国から寄せられた応募作品の中から、選りすぐりの10点を選び、「創作漢字記念切手シート」を制作・販売している。回を重ねるごとに応募者が増え、現在では全国から150点ほどの応募がある。



#### 4 子ども未来創造まちづくり事業（漢字教育・古代文字ミステリーウォーク体験）

小学校での出張講義を開催。ミステリーウォークを合わせて実施することで、例えば、お店の看板の古代文字が読めなかったり、意味がわからなかったりという時には、子どもたちがグループごとで話し合いながら考えたり、またその都度その店の方に質問して教えてもらうこともあり、友達・街の人との交流も含めて漢字を学ぶ取り組みとなっている。

「地酒秘蔵ツーリズム」等の活動を行っている。

### 実践の成果

「地酒秘蔵ツーリズム」の展開・「タビカレ」総合優勝等（2014.3観光庁）等